



フクロウは、なぜ卵から生まれるの

鳥は卵から生まれる

フクロウは、鳥の仲間です。鳥の仲間は、みな卵から生まれます。では、どうして鳥は卵から生まれるのでしょうか。

はじめて地球上に現れた生き物は、バクテリアのような原始的な生き物だったようです。やがて、長い長い時間をかけて、簡単なつくりの生き物から、複雑で高度なつくりの生き物へと進化していき、いろいろな種類の生物が現れてきました。その子孫のふやし方も、最初は一つの細胞が半分に分かれて2つになる、というような簡単な方法でした。やがて、オスとメスから両方の遺伝子(親の性質や体質などを伝えるもの)をもらって、子どもが生まれるしくみができてきました。両方の遺伝子のおかげで、両方のさまざまな性質を受けつぐため、気候の変化や、病気などにも、生きのびられる率が高かったからです。

ほ乳動物以外は、卵で生まれる

子どもが生まれるとき、親から卵で産み出されるという形が、まず、できあがりしました。進化の段階で、下等な生き物ほど、大量の卵を産みっぱなしにする例が多いといえます。赤ちゃんが、ぶじに大きくなる率が低い生き物ほど、1回に産む卵の数を多くしないと、子孫が残せないからです。鳥の仲間は、卵でふえる動物の中では、いちばん高等なほうで、少ない数の卵を産み、オスとメスで世話をしひなを育て、効率よく子孫をふやせるようになっています。人間やネコなど、進化(生物の体が単純なものから複雑なものに変わること)した高等なほ乳動物は、鳥よりさらに進んで、母親の体内で赤ちゃんになるまで育て、生まれてくるようになりました。(監修・今泉 忠明)

